

2026年度ゼミ（演習3A／演習3B）要覧

担当者名	趙 星銀
演習テーマ	歴史としての「平成時代」
内容と 卒業論文の 指導方針	<p>前期は、文献（吉見俊哉『平成時代』岩波新書、2019年）を読みながら卒業論文のテーマ設定・構想を指導する。</p> <p>後期は、参加者の卒論テーマに関連する文献を選定・会読し、論文執筆のための具体的なアドバイジングを行う。参加者は、テーマ設定から論文提出にいたるまでの各ステップの進捗状況を定期的に共有し、プレゼンテーションとディスカッションを通してお互いの論文執筆をサポートする。</p>
メール・アドレス	scho@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	月曜日・昼休み（要予約）
授業概要	<p>（前期）吉見俊哉『平成時代』（岩波新書、2019年）を手がかりに、戦後史全体の流れの中で「平成」という時代が持つ意味を再考します。平成期は、冷戦終結とともに国際秩序の変動、バブル崩壊と長期停滞、情報化・グローバル化、そして災害・ナショナリズムの再浮上の中で、社会の分断と閉塞が顕在化した時代であります。この時代の歴史を政治・経済・文化・メディアといった多角的な視点から検討し、それが現在の日本社会に与えた影響について考察します。</p> <p>（後期）卒論指導</p>
学習目標	<p>1) 理解する力</p> <p>言葉が頭を素通りしていかないように、文献を丁寧に読む訓練をする。テクストから得た知識を自分のものとしてしっかりと根付かせる。</p> <p>2) 説明する力</p> <p>プレゼンテーションやディスカッションを通して、自分の考えを他の人にわかりやすく説明できるコミュニケーション力を身につける。</p> <p>3) 批判する力</p> <p>正確な知識に立脚して、技術と政治に関する言説を批判的に考察する。</p>
授業計画	<p>春学期</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 はじめに</p> <p>第3～4回 第1章 没落する企業国家</p> <p>第5～6回 第2章 ポスト戦後政治の幻滅</p> <p>第7～8回 第3章 ショックの中で変容する日本</p> <p>第9～10回 第4章 虚構化するアイデンティティ</p>

	<p>第11回 終わりに 世界史のなかの「平成時代」</p> <p>第12~14回 卒論指導、まとめ</p> <p>秋学期</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2~4回 卒論関連文献会読・ディスカッション</p> <p>第5回 中間報告（1）</p> <p>第6~8回 卒論関連文献会読・ディスカッション</p> <p>第9回 中間報告（2）</p> <p>第10~12回 卒論指導</p> <p>第13回 卒論最終報告</p> <p>第14回 まとめ</p>
予習	(前期) テクストを読み、毎回コメントペーパー(1000-2000字程度)を提出する。
復習	授業前：コメントペーパーの冒頭に前回の内容を簡略にまとめる。 授業後：各自の興味や疑問について参考文献を参照しながら整理しておく。
授業に関する注意事項	参加者は全員、1回以上のプレゼンテーションを担当する。授業は参加者の報告とディスカッションを中心に行われる。
教科書	吉見俊哉『平成時代』(岩波新書、2019年)
参考書	授業中に説明する
成績評価の基準	平常点80%、プレゼンテーション20%
関連URL	<p>12月2日（火）13:00~13:30にゼミ説明会をオンライン（Zoom）で開催します。</p> <p>Topic: 2026年度 演習3（趙） ゼミ説明会 https://us02web.zoom.us/j/84133908152 Meeting ID: 841 3390 8152</p> <p>カメラ・マイクはオンでもオフでも大丈夫です。どうぞ気軽にご参加ください。</p>
認定留学期間中の遠隔指導	可 / 否 / その他(要相談)
備考	